

# Nohgaku Tradition and Innovation



**The oldest play Okina is a prayer for world peace.**

# self-introduction

## Atsushi Ueda

Nohgaku small drum “Kotsudumi” player

New Nohgaku script writer

“Dengakusha” Co., Ltd.CEO



# Origin of company name

The roots of Nohgaku are “Sarugaku” and “Dengaku”.

“Sarugaku” is an ancient Japanese performing art.

“Dengaku” is a performing art that prays for a good harvest.

These fusions led to the creation of Nohgaku.

What is “Dengakusha”?

Connecting “agriculture” and “traditional performing arts”.

It also means a company that spreads the joy of Nohgaku.



伝 楽 舎

DENGAKUSHA

# What is Nohgaku?

Nohgaku is the oldest Japanese performing art.

It was also registered as the first UNESCO World Intangible Cultural Heritage.

Nohgaku has the longest history in the world.

And it is a performing art with high artistry and spirituality.

The photo shows the performance “Okina” at the Vatican→



# The Instruments

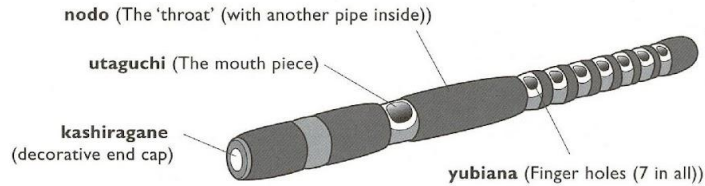
## Listen to the music!

Close your eyes and listen.

The unique world created through the sounds of Japanese instruments spreads across the theatre and between the special zones of stillness and action on stage, serving an important role to heighten the tension and enhance the atmosphere. The 'Gonin-bayashi' (five court musicians) in the song of the Hina-Matsuri (Girl's Day) uses precisely the sounds of these four instruments and chanting.

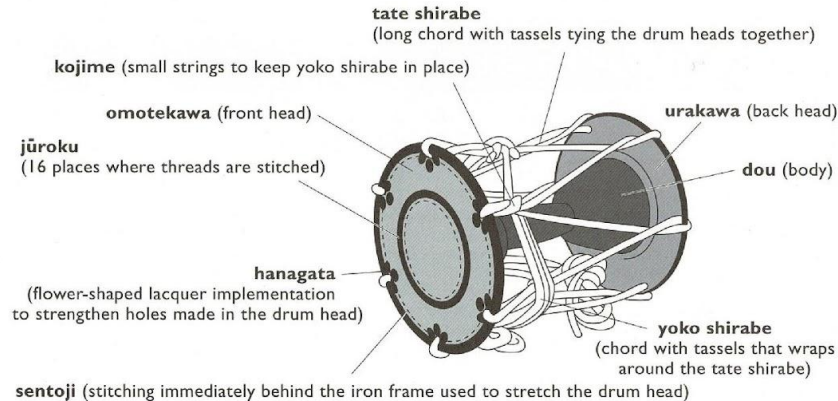
## Fue ( flute )

The fue used in Noh is a transverse flute called Nō-kan and is made from bamboo. Nō-kan is the only instrument in Noh that plays melodies in dances called mai, such as Jo-no mai and Chū-no mai, synchronizing with the beat rhythm. The flutes used in Noh each differ slightly from one another in length and size, with individual timbre.



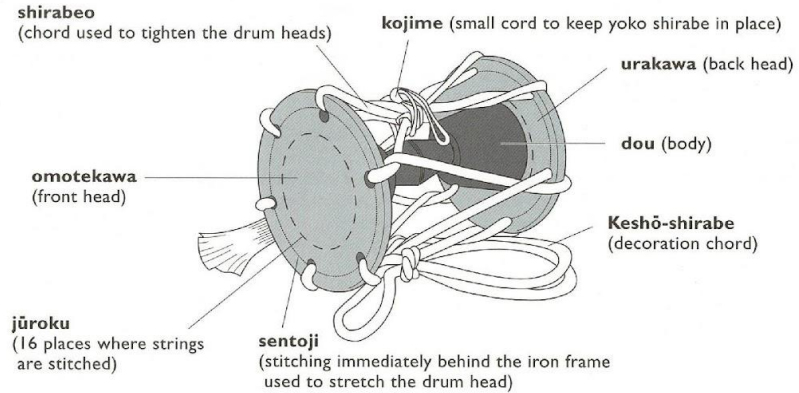
## Ko-tsuzumi (shoulder-drum)

This is sometimes called simply tsuzumi (drum). There are two basic tones: the high-pitched kan and the low and soft otsu, which can both produce loud and soft sounds, and depending on the way the drum is struck, four sounds 'chi, ta, pu and po' can also be produced. For the performance the player breathes onto the drum skin to control the moisture and adjusts the tension of the heads, while small pieces of Japanese paper are moistened and stuck on the back drumhead to fine tune the tone.



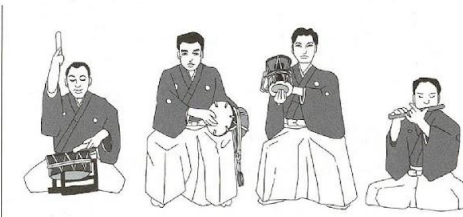
## Ō-tsuzumi

Ō-tsuzumi is also called ōkawa. Before each performance the drum heads which have been dried over charcoal heat for 1 to 2 hours is placed over the body of the drum and stretched taut with shirabe chords. Doing so will ensure a unique strong and resonating high-pitched sound (expressed as 'kaan' in Japanese) different from the soft sound made with the ko-tsuzumi. The sounds are expressed by strong and weak, and resonating beats ('don-chon' in Japanese).

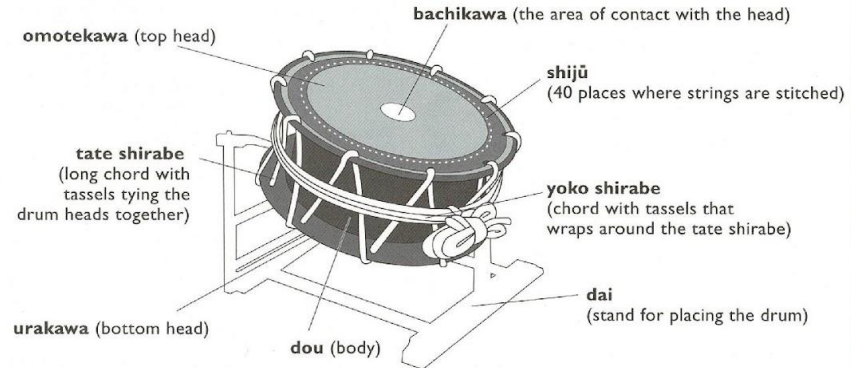


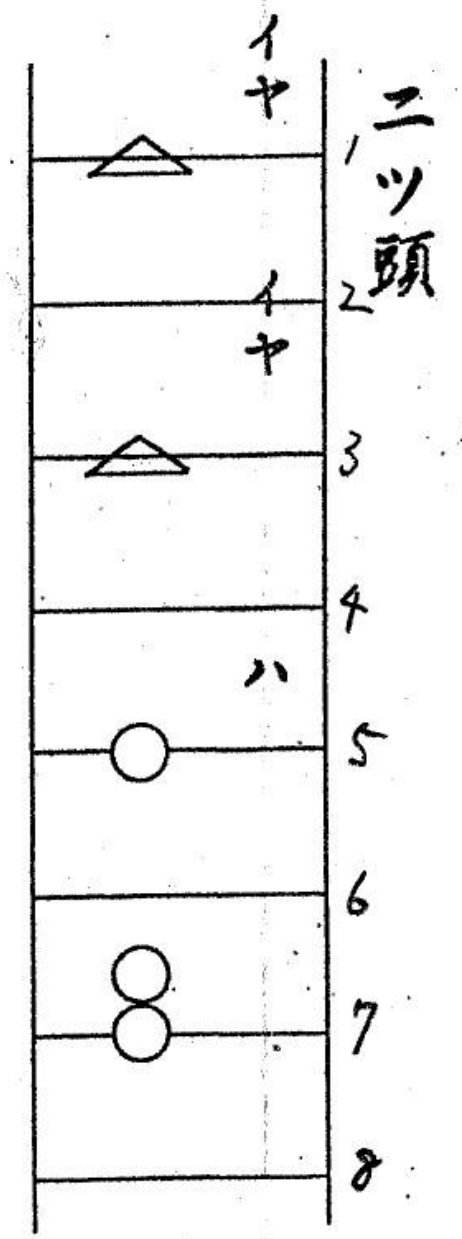
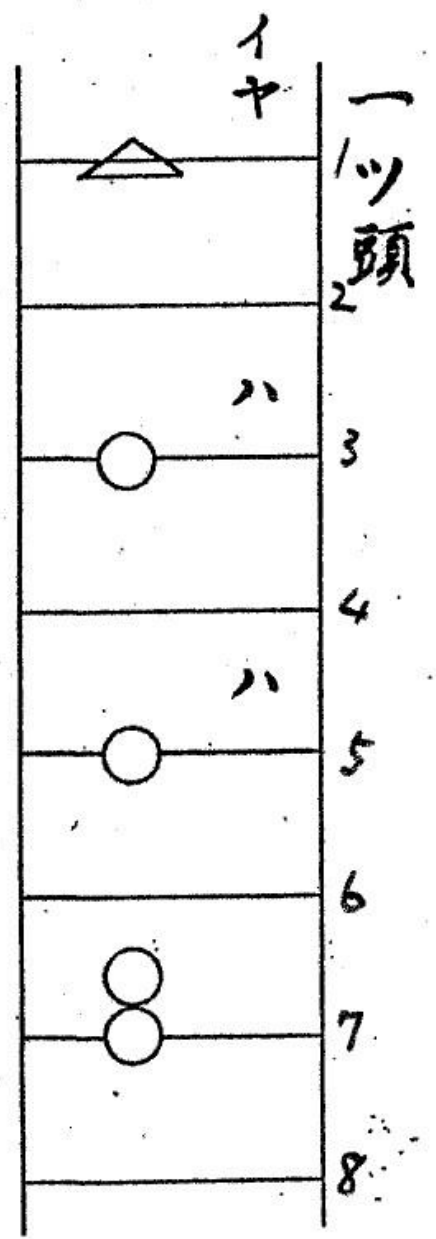
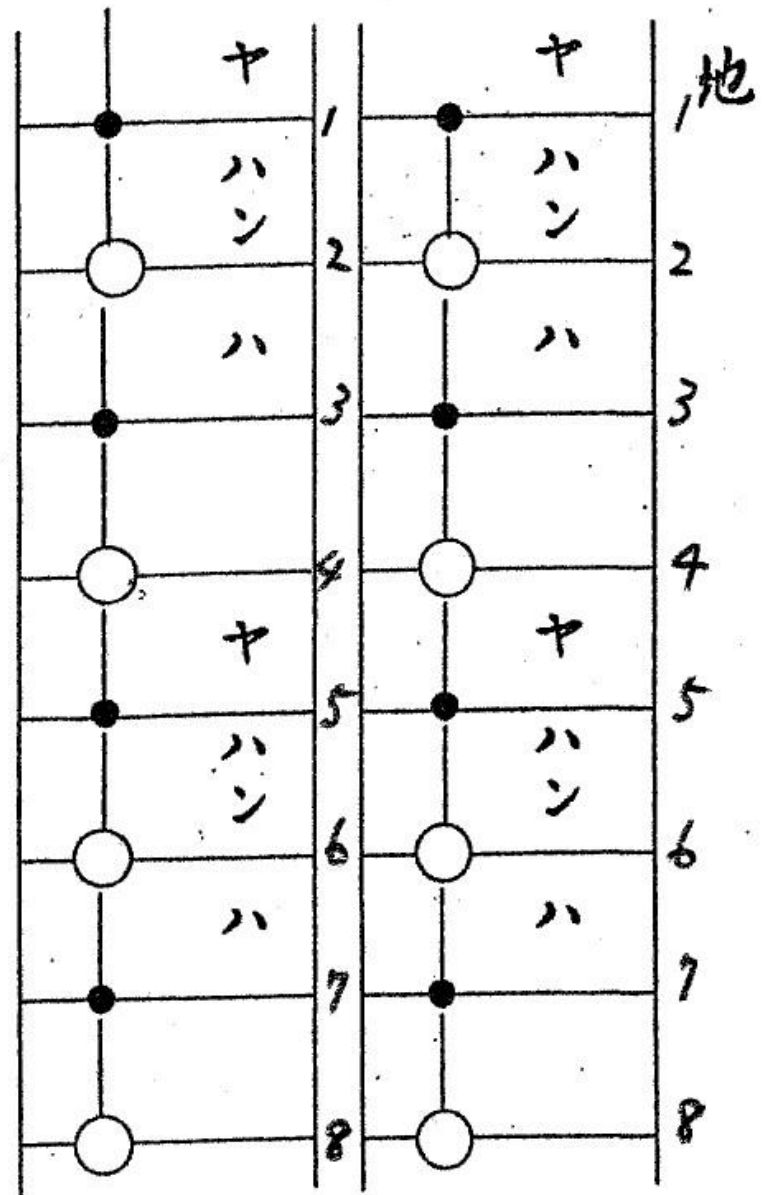
## Taiko

While horse hide is used in the other percussion instruments, cow hide is used for the Taiko. There are two sounds made by the Taiko, the 'non-resonating sound' ('tsuku-tsuku' in Japanese) and the 'resonating sound' ('ten-ten' in Japanese).



Hayashi Kata musicians during performance  
From right: fue, ko-tsuzumi, ō-tsuzumi and taiko.





翁の手附

# New creations for modern Nohgaku.

Original Noh Kyogen by Atsushi Ueda.

Kyogen is a comedy within Nohgaku.

I focus on the history, culture, and great people loved by local people.

And I will focus on modern events.

A new script written over the past 4 years.

- New Noh performances "Naomasa", "Kamiike", "Yatsukodayu", "Mitsuhide", "Ten no Kawa", "Murashige", "Kiyohimebuchi"
- New children's Kyogen "Chi-tan and Tamba dragon" "Kumagusu and Slime Mold" "Sandarino"

And "Amabie" to pray for the elimination of the new coronavirus



# First Performance

- New Noh performances "Naomasa",
- New children's Kyogen "Chi-tan and Tamba dragon"

# November 29, 2019 Kasuga Culture Hall Tamba City



第一回 新丹波猿楽座特別公演  
新작能 나오まさ  
我と丹波の武士の  
昔を今に帰すなり！

令和元年11月29日(金)  
18時開演～20時頃終了予定

当日16時から開場前のロビーで記念イベントがあります！  
・ちーたんや甲冑武者との撮影会  
・小鼓(こつづみ)に挑戦！  
・ちーたん・赤井直正のグッズ販売  
・パネル展示

【会場】春日文化ホール  
【入場料】  
大人S席 前売3,000円 当日3,500円  
大人A席 前売1,700円 当日2,000円  
★事前申し込みで中学生以下無料!!  
(A席限定・要保護者同伴・締切11/25)  
※丹波能楽振興会事務局へFAXかメールでお子様の名前・学年・住所・電話番号を  
お知らせください。未就学児も保護者同伴でご入場いただけます。

【前売券取扱所】  
春日文化ホール/ライブピア市島/ちーたんの館/ゆめタウンサービスカウンター/かいばら観光案内所/柏原駅/レストラン山の駅  
FAXでのお申込み 0795-71-5204 メールでのお申込み tamba.noh@gmail.com  
丹波能楽振興会事務局 (チケットは振込用紙を添えてご郵送いたします)  
兵庫県 丹波市 丹波市教育委員会 神戸新聞 丹波新聞





# 2nd performance

- New Noh performances "Yatsukodayu"
- the elimination of the new coronavirus "Amabie"

November 20, 2021

Kasuga Culture Hall Tamba City



# 3rd performance

December 28, 2021  
Yamanami Hall Tamba City

- Kyogen "Sanbaso"
- Kyogen "Kakiyamabushi"
- New children's Kyogen "Chi-tan and Tamba Dragon"

AFF  
ARTS for the Future

狂言 三番二  
狂言 柿山伏  
新作子供狂言 ちーたんと丹波竜

丹波狂言フェスティバル

第三回新丹波猿楽座公演  
2021年12月28日(火)  
開場14時 | 開演14時半  
やまなみホール

会場 | やまなみホール (兵庫県丹波市山南町谷川1110)  
座席 | 全部自由 (感染症対策のため、座席数制限)  
料金 | 一般前売り1500円 / 学生1000円 / 中学生以下無料  
主催 | 丹波能楽振興会 / 株式会社匠楽舎  
後援 | 兵庫県丹波県民局/丹波市/丹波篠山市/丹波市教育委員会/丹波篠山市教育委員会/丹波市観光協会/大丹波手づくり甲冑交流会



I won the “Fukuchiyama Castle Challenge”, a project held by Fukuchiyama City (1st place out of 34 groups) March 8, 2021  
• New Noh “Mitsuhide” and Armored Warrior in Fukuchiyama

前澤友作さんのふるさと納税500万円を活用した。  
#福知山城チャレンジ 実現アイデア決定!

スペクタクル新作能『光秀』×甲冑隊  
in 福知山城

光秀マインド

2022年3月上演予定!

明智光秀が主人公の  
史上初の能

提案者  
株式会社 伍家會

甲冑隊

主催:明智光秀が築いた城下町 京都府福知山市



# 4th Performance

August 27, 2021

Fukuchiyama Kosei Hall Large Hall

• New Noh "Mitsuhide" and Armored Warrior in Fukuchiyama



ス  
ペ  
ク  
タ  
ク  
ル  
新  
作  
能

× 甲冑隊 in 福知山

**光秀**

第4回新丹波猿楽座特別公演  
スペクタクル新作能  
光秀 × 甲冑隊 in 福知山  
2022年8月27日(土)  
一部 開場12時 | 開演13時  
二部 開場16時 | 開演17時  
福知山市厚生会館大ホール

会場 | 福知山市厚生会館大ホール  
席 | 一部か二部をお選び下さい。全席自由席 (S席 3,500円・A席 2,000円・ファミリー席 3,000円)  
主催 | 丹波能楽振興会  
制作 | (株)伝楽舎  
後援 | 福知山市 福知山市教育委員会 福知山市商工会 福知山観光協会 福知山観光ガイドの会  
明智光秀公研究会 明智継承会 福知山文化協会 福知山史談会 大丹波手づくり甲冑隊



# 5th Performance

November 3, 2021  
Hyozu Shrine Tanba City

The most famous historical novelist, Ryotaro Shiba, wrote a novel about the legend of Naomasa Akai and his magical sword bag. I created it as a new Noh script!



スベクタクル新作能

# 新・皮

てんのかわ

第五回 新丹波猿楽座特別公演  
～「ようこそお茶の国丹波へ」第二弾～

令和4年11月3日(祝)

午前の部 9時30分～11時30分  
(開場8時30分)

午後の部 13時30分～15時30分  
(開場12時30分)

会場：兵主神社特設能舞台

- お茶会 11時30分～13時30分
- 記念写真 11時30分～12時
- パネル展 8時30分～15時30分

×甲冑隊 in 丹波

会場 | 兵庫県丹波市春日町 兵主神社特設能舞台  
定員 | 午前・午後 各200名  
料金 | 全席自由席 3,500円 午前/午後をお選びください  
主催 | 丹波能楽振興会  
協力 | 丹波地域活性化委員会  
制作 | 株式会社伝楽舎  
後援 | 兵庫県(公財)兵庫県芸術文化協会/丹波市/丹波市教育委員会

お問い合わせ (丹波地域活性化委員会 言任)  
TEL 090-1442-8323  
MAIL: tambano@gmail.com

QRコードから  
お買い求めいただけます。

【紙チケット販売場所】  
・道の駅 おおあちんの里  
・ゆめタウンサービスカウンター  
・新・文具館柏原本店 (木曜日休)

<チケット販売について>

番号：150 伊藤



We will leave the scripts of traditional performing arts for future generations with new themes,  
 We will create a historical culture that we can be proud of around the world.



知らぬ人の怪しむるも、理なれ、いかにも  
 あれなるハ、漁火にあらず、当所有明の  
 神祕不知火と申す、火なるハ、  
 カル香素燈ひを、夜も不知火の領らぬ  
 雲の濃く美の海に、この海の彼方なるに  
 人知れぬ火を灯したる神霊のおはすと  
 古言の葉今に伝ふ、早も不知火とハ

サシ上今宵八月落ちて波静かなる浦傳ひ深き  
 有明の干潟に漁つて世上を渡るものに  
 て、いかに尋ぬ申す、事の内、此方  
 の事にて、何事にて、何ぞ、あの海上に  
 恥々と浮かみたる、数多の光ハ、漁火にも見  
 えず、何とぞ、いかに尋ぬ申す、事の内、此方  
 申す、いかに尋ぬ申す、事の内、此方

思ひも寄らぬ漁事あり、神ハ人の  
 敬ふまよつて、威を増し、人ハ神の  
 護り依れり、其の幸福増長あらざ  
 らん、有難や、諸人、快樂の申樂の  
 道、海に縁や、さぬ志、海にた  
 め、いかに尋ぬ申す、事の内、此方

の舞のその始め、神代の舞のその始  
 め、妙花の種とあり、さらん、  
 く申樂とつば、いかに尋ぬ申す、事の内、此方  
 多障りありし時、いかに尋ぬ申す、事の内、此方  
 まゆぎ、河勝と申す、いかに尋ぬ申す、事の内、此方  
 くも、漁作のいかに尋ぬ申す、事の内、此方  
 初めと守、いかに尋ぬ申す、事の内、此方

# This activity has been featured in many medias.



地域全体で能・狂言という大切な日本の文化を自分たちのものだと思っただいて



「能の種」まき文化に

能楽小鼓方としての顔はもちろぬ、能楽を主とする伝統芸能の振興を図るプロデューサー、地域にちなんだ新作能などを生み出す作家としても活躍する。丹波市に移住して約9年半、この地に「能の種」をまき続け、それぞれが成果を上げている。

和歌山県出身。父・悟さん、兄・慎也さんは太鼓方で、自身は舞いや謡いを担う「シテ方」の稽古を受けて育った。学業や部活動が忙しくなった中学生の時から、能とは距離を置いた。高校は進学校へ。学業に嫌気がさしたころ、代わりに興味を抱いたのはバイクだった。ある日、父がぼつりともらった。「良いバイクを買ってやってもいいぞ」。続けて「その代わり、雛子方の稽古をしな」。高校2年時、丹波篠山市の春日神社で毎年開かれる元朗能「翁」で小鼓方としてデビュー。大倉流16世家の大倉源次郎さん（人間国宝）を師とし、海外を含む数々の舞台に上がった。

2013年、丹波市春日町で田楽ライブを開いたことを機に、翌年、丹波市に移住。「丹波能楽振興会」を立ち上げ、小中学校などへ出て能楽の普及に力を注いでいるほか、能楽グループ「新丹波猿楽座」を設立。また、コンサル業務などを行う「伝楽舎」を起業し、伝統芸能の振興を図るなど、精力的に活動している。

「この数年は、地域の魅力を能に仕立てる新作能狂言作家として」「真正」神池「ちーたん」丹波竜「光秀」など、丹波市にちなんだ新作の能や狂言を生み出している。

夢は能楽堂の建設という。「丹波の魅力を詰め込んだ能や狂言を世界に発信したい。能の種をまき、地域の人の手で育てていく文化にできれば」。49歳。（田畑知也）

能楽師小鼓方大倉流  
伝楽舎代表取締役  
うえだ あつし  
上田 敦史さん  
(丹波市水上町石生)

文化芸術は「豊かな心」と「創造性」を育みます  
みんなで一緒に考えてみませんか？

「丹波市の多様な文化芸術を活かし、次世代の人づくり・まちづくりに繋げる」

文化芸術って創造力と想像力が大事だよ... 子どもたちは特にイイね... いまは文化芸術は必要だよ... 文化芸術って身近な生活の中にあるんだよ... ねえあちやんが得意な手芸も芸術だよ... 文化芸術って身近な生活の中にあるんだよ... ねえあちやんが得意な手芸も芸術だよ...

2019.10.19.sat  
13:00開演 (12:30開場)  
ライブピアいちじま大ホール  
(兵庫県丹波市市島町上田 814 番地)  
参加料：無料 (定員 500名)

1 和太鼓パフォーマンス 13:00 ~  
鼓心 (甲賀流水/川太鼓振興会)

2 基調講演 13:20 ~  
講師 藤野一夫 氏  
(神戸大学大学院国際文化学専攻教授)

3 大正琴パフォーマンス 13:50 ~  
認定こども園  
「ミライズそら」5 歳児

4 パネルディスカッション 14:00 ~  
テーマ 多様な文化芸術を活かした次世代の人づくり・まちづくり  
パネリスト  
上田敦史 氏 (能楽大倉流小鼓方)  
田口幹也 氏 (城崎国際アートセンター館長)  
山口洋子 氏 (認定こども園ミライズそら園長)  
山内順子 氏 (地域史研究者)

5 スプレアートパフォーマンス 15:00 ~  
ライブピアいちじま  
白壁一軒敷ステーション  
DAISUKE (井口大助 氏)  
文化芸術を愛するアーティスト  
文化芸術を愛するアーティスト

兵庫県立美術館

【主催】丹波市  
【後援】丹波市教育委員会・丹波市文化協会・丹波市郷土民謡保存協会・丹波市立文化ホールオペレータークラブ ZERO-IV  
丹波文化団体協議会・丹波市観光協会・神戸新聞社・丹波新聞社・アマチュアアーティスト育成支援事業実行委員会  
【問合せ】丹波市まちづくり部文化・スポーツ課芸術文化係 (春日文化ホール内) 070795-74-1050 FAX0795-74-2855 【メール】 kasuga-bunkahall@city.tamba.lg.jp

文化芸術は「豊かな心」と「創造性」を育みます  
みんなで一緒に考えてみませんか？

「丹波市の多様な文化芸術を活かし、次世代の人づくり・まちづくりに繋げる」

文化芸術って創造力と想像力が大事だよ... 子どもたちは特にイイね... いまは文化芸術は必要だよ... 文化芸術って身近な生活の中にあるんだよ... ねえあちやんが得意な手芸も芸術だよ... 文化芸術って身近な生活の中にあるんだよ... ねえあちやんが得意な手芸も芸術だよ...

2019.10.19.sat  
13:00開演 (12:30開場)  
ライブピアいちじま大ホール  
(兵庫県丹波市市島町上田 814 番地)  
参加料：無料 (定員 500名)

1 和太鼓パフォーマンス 13:00 ~  
鼓心 (甲賀流水/川太鼓振興会)

2 基調講演 13:20 ~  
講師 藤野一夫 氏  
(神戸大学大学院国際文化学専攻教授)

3 大正琴パフォーマンス 13:50 ~  
認定こども園  
「ミライズそら」5 歳児

4 パネルディスカッション 14:00 ~  
テーマ 多様な文化芸術を活かした次世代の人づくり・まちづくり  
パネリスト  
上田敦史 氏 (能楽大倉流小鼓方)  
田口幹也 氏 (城崎国際アートセンター館長)  
山口洋子 氏 (認定こども園ミライズそら園長)  
山内順子 氏 (地域史研究者)

5 スプレアートパフォーマンス 15:00 ~  
ライブピアいちじま  
白壁一軒敷ステーション  
DAISUKE (井口大助 氏)  
文化芸術を愛するアーティスト  
文化芸術を愛するアーティスト

兵庫県立美術館

【主催】丹波市  
【後援】丹波市教育委員会・丹波市文化協会・丹波市郷土民謡保存協会・丹波市立文化ホールオペレータークラブ ZERO-IV  
丹波文化団体協議会・丹波市観光協会・神戸新聞社・丹波新聞社・アマチュアアーティスト育成支援事業実行委員会  
【問合せ】丹波市まちづくり部文化・スポーツ課芸術文化係 (春日文化ホール内) 070795-74-1050 FAX0795-74-2855 【メール】 kasuga-bunkahall@city.tamba.lg.jp